

メンテにゆ〜す

発行：国土交通省近畿道路メンテナンスセンター、R3.11 版

～ “橋梁点検の方法とは？” ～

橋梁点検では、“5年に1回の点検を確実に実施“しています（定期点検）。では、実際にどのような方法で点検を実施しているのか？点検を実施するにあたってどんな道具が必要なのか？を今回はご紹介します。

●橋梁点検に必要な道具は？

点検など現場作業では、第一に怪我や事故をしないことがとても重要です。安全に点検を実施するには、まず身なりから整えます。作業時には定められた安全な作業着を着用します。橋などに頭をぶつけて怪我をしないようにヘルメットや、橋梁点検車など高所から落ちて事故をしないように安全ベルトの着用も必須です。また、カメラや野帳は、現場で損傷状況などを記録するために使用します。

●さまざまな点検方法

橋梁点検では、原則として橋のすべての箇所を手で触れる距離まで近づかないといけません。橋に近づくための手段としてさまざまな点検方法を駆使して点検を行います。

点検方法①【地上点検】

読み方からそのままですが、地上から点検する方法です。橋の高さが低く、狭いところでも確実に点検します。



点検方法②【梯子点検】

梯子または脚立を使って点検をします。橋に近づくための昇降施設として、高さが5m程度までの橋に使用します。



点検方法③【リフト車点検（高所作業車）】

橋の下の道路や広場から橋に近づいて点検します。橋の高さによりリフト車の長さを決めますが、6m～最大 100m まで伸びるものがあります。



点検方法④【橋梁点検車】

橋の上からブームを下に伸ばして橋の側面や橋の下を点検します。橋の下が川や谷など下から点検できない場合に使います。



点検方法⑤【船・ポート点検】

川や池などで点検車による作業スペースが確保できない低い橋などに使用します。揺れたり流されたりするためバランスを取りつつ点検を行います。



点検方法⑥【ロープアクセス点検】

ロープにぶら下がって橋の上から下降し橋に近づいて点検します。ロープを伝って自由に移動でき、通常の方法では近づけない箇所の点検ができます。



●安全で効率的な点検を！

今回は6つの点検方法をご紹介しましたが、この他にも、仮設の足場を組み立て使用する点検や、ドローンを飛行させて撮影する点検など、技術者は、橋の条件に合った最適な方法かつ効率的に点検を行っています。

これらの点検を行う上で安全対策は欠かせません。毎朝、点検作業を開始する前に朝礼を行い、点検員1人1人が安全な作業ができるよう努めています。

～終わり～

